

## 重要無形文化財「八重山上布」の指定及び保持者の認定（各個認定）についての報告

文化財課

国の文化審議会は、令和6年7月19日（金）に開催された同審議会文化財分科会の審議、議決を経て、重要無形文化財「八重山上布」の指定及び保持者の認定（各個認定）について、文部科学大臣に答申した。なお、認定日については、今後官報に搭載された日付となる。

### 1 重要無形文化財「八重山上布」の指定及び保持者の認定（各個認定）

今回初めて「八重山上布」を重要無形文化財に指定するとともに、新垣氏をその保持者として認定するものである。

重要無形文化財	保 持 者		
名 称	氏 名	生年月日（年齢）	住 所
（工芸技術の部）			
やえやまじょうふ 八重山上布	あらかき さちこ 新垣 幸子	昭和20年10月30日 （満78歳）	石垣市

※年齢は令和6年7月19日現在

#### （1）重要文化財の概要

八重山上布は、イラクサ科の苧麻<sup>ちよま</sup>を原材料とした八重山の伝統的な織物製作技法である。主として石垣島内で栽培される苧麻<sup>てう</sup>を手績みした糸を使用し、紅露<sup>くーる</sup>や藍<sup>ふくぎ</sup>、福木、その他同島内に育つ植物等を染料に用いる。1637年から250年以上続いた人頭税<sup>にんとうぜい</sup>（頭懸<sup>ずかり</sup>）制度下の貢納布制度では、琉球王府の厳しい監督下で八重山上布の品質管理が行われ、「御用布<sup>ごようふ</sup>」には、「赤嶋上布<sup>あかしまじょうふ</sup>」や「紺嶋上布<sup>こんしまじょうふ</sup>」などの別があり、王府が作成した「御絵図<sup>みえず</sup>」や「絵形<sup>えがた</sup>」によって緋の柄や色が指定され、極めて高度に技術的な洗練と発展を促した。

貢納布として織られていた手結<sup>てゆい</sup>の緋技法等による「紺嶋上布<sup>こんしまじょうふ</sup>」（括染上布<sup>くくりぞめ</sup>）は、手間と時間を要することから量産が難しく、従事する人が減少したが、戦後、関係者の尽力により復興が図られ、今日では、伝統的な染織技法を土台に、島の自然や風土に触発された、自由な発想による芸術性の高い作品制作を行う作家が活躍している。

八重山上布は、芸術上特に価値が高く、工芸史上特に重要な地位を占め、かつ、地方的特色が顕著な染織技法である。

## (2) 保持者の特徴

新垣幸子氏は、伝統的な八重山上布の技法を高度に体得し、卓越した技量を持つ染織作家として活躍している。同人の作品においては、伝統的な八重山上布の技術を基に、多様な植物染料を生かした透明感あふれる色彩で、括染くくりぞめならではの自由で伸びやかな縞模様が展開し、その芸術性に対して高い評価を得ている。

## (3) 保持者の概要

同人は、昭和20年に疎開先の熊本県で生まれた。石垣島内の高等学校を卒業後就職するも工芸への思いが高じ、昭和47年に沖縄県工業試験場(現 沖縄県工芸振興センター)染織課で基本的な染織技法を習得した。1年間の研修後、大城志津子おおしろしづこ(昭和49年沖縄県指定無形文化財「本場首里の織物」保持者)に師事しつつ、石垣島内の石垣英富いしがきえいふ(昭和53年沖縄県指定無形文化財「八重山上布」保持者)の工房にて捺染なっせん上布の技術指導を受け、同年末には自らの工房を開設した。以来、制作を重ねながら技法・表現を研究して研鑽を積み、八重山上布の技法を高度に体得した。

昭和63年から平成10年にかけての、石垣市立八重山博物館による「八重山上布復元事業」の中心的な存在として日本民藝館所蔵等の琉球国時代の八重山上布の調査・研究と、復元製作を行い、伝統的な八重山上布の縞織の技法を解明し、御用布として製作された「紺鳴上布」の技法を復活させた。

同人の作品は、伝統的な八重山上布の調査・研究の成果と復元事業で得た技術を基に、多様な植物染料を生かした透明感あふれる色彩で、括染くくりぞめならではの自由で伸びやかな縞模様が展開させるなど、八重山上布の制作技法に精通している。

## (4) 保持者の略歴

昭和47年 沖縄県工業試験場(現 沖縄県工芸振興センター)染織課にて研修  
(同48年まで)  
同 48年 大城志津子おおしろしづこ、石垣英富いしがきえいふに指導を受ける  
同 年 石垣島内に工房を開設し、独立(現在に至る)  
同 年 日本民藝館所蔵の琉球国時代の八重山上布に触発され、「紺鳴上布」(括染上布)の復活を試みる  
同 49年 第26回沖展奨励賞(初出品) 作品「着尺きじゃく」  
同 50年 志村ふくみ(平成2年重要無形文化財「紬織」(各個認定)保持者)に指導を受ける

令和6年第11回教育委員会会議 報告事項(3)

- 同 55 年 第32回沖展奨励賞 作品「八重山上布」<sup>やえやまじょうふ</sup>
- 同 年 石垣市八重山上布後継者育成事業研究過程講師(平成元年まで)
- 同 56 年 第33回沖展奨励賞 作品「八重山上布」<sup>やえやまじょうふ</sup>
- 同 58 年 沖縄県工芸公募展優秀賞
- 同 59 年 第36回沖展準会員賞 作品「八重山上布」<sup>やえやまじょうふ</sup>
- 同 60 年 第37回沖展準会員賞 作品「八重山上布」<sup>やえやまじょうふ</sup>
- 同 年 沖展会員(現在に至る)
- 同 年 安谷屋正量賞<sup>あだにやせりょう</sup>(八重山上布の復興と後進育成)
- 同 63 年 「八重山上布復元事業」(事業主体:石垣市立八重山博物館)に参加(平成10年まで)
- 平成元年 沖縄県立芸術大学非常勤講師(同27年まで)
- 同 3 年 沖縄県指定無形文化財「八重山上布」保持者(現在に至る)
- 同 10 年 社団法人日本工芸会(現 公益社団法人日本工芸会)正会員(現在に至る)
- 同 年 「卓越した技能者(現代の名工)」
- 同 11 年 第19回伝統文化ポーラ賞(八重山上布の復興・伝承)
- 同 13 年 第17回八重山毎日文化賞大賞
- 同 16 年 第38回沖縄タイムス芸術選賞大賞
- 同 20 年 多摩美術大学客員教授(同31年まで)
- 同 21 年 第43回日本伝統工芸染織展日本工芸会会長賞(優秀賞)  
作品「八重山上布紹織着尺「清流のほとり」」<sup>やえやまじょうふろおきじゃく せりゅう</sup>
- 同 29 年 沖縄県文化功労賞

